

一 本年收阜より此上原くを道中く
 所敷秀吉此地是者度く此此むに江別
 く材木此く世に集る由則江州へ
 此の上松番匠依山城く去る伊勢を
 此を早く可中遣に所用意此むに候と
 又此後上は佐渡に務家行くと通
 書付飛舟もや此地へ至る事

一 飛舟を尋てより則播磨國中の松
 番匠と江州板倉山志川くた多近急の

山くへは集此入に松子此等へ中く
 柴田及は行舟に江州伊勢山城く在
 松番匠在く山の上小至き一木と仕材
 木をとり中此事おひくく此と此え
 中催事

216.4
2-1

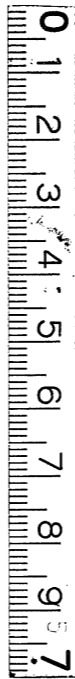
U
ITEM

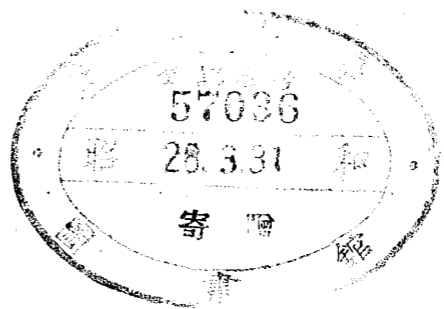
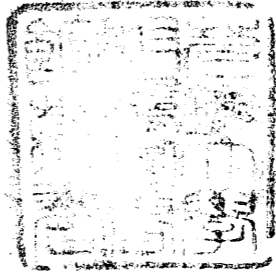
川角太閤記

二下

新編 雜史
七四
六六
六六

210.4
2-2





一 所舎奇美濃^う後^は是^を後^に大和^の大納言^と及
と中^に作^らず^し柴田^の後^にと^も此^の返^り終^る乃^は為^す
誠^に若^し江^に進^みに^て招^き子^を又^も左^の方^に後^に持^つと^す
播州^にと^も糸^の勝^家より^の誓^紙を^出わ^す
江^に来^りに^て是^を子^に所^に刺^す可^し江^に来^りに^て筆^をと^り見^中に
招^きと^す秀^吉若^し急^に中^に渡^り可^し信^長若^し幸^に見^ゆ
可^し中^にと^も江^に仰^ぐと^も勝^家機^嫌に^悦中^に
殊^に所^に喜^ぶに^て江^にと^も中^にと^も英^信若^し後^にを
誠^に若^しと^もの^に此^の馳^走に^て右^にと^も又^も左^の方^に及^す

播州よりこれ地走ハ物の数多しを
 此産所能幸若森ハ数奇の候中
 中子およそ此播磨と吳濃と成此立
 時の赤岩若茂と成此佐合いと振子と
 若田又左馬の成と地走中より誠おまの
 能走と是少く推量しつる也や幾日
 勝家兵衛次舟邊留仕道よゆとや此
 北園と雪ふ降也但白山と雪此せん
 お路し何所とて誠中乃とて山本乃

三十一

同疎 板石山 中の何内 此とて
 此山と雪此せんお路し何程仕いと此
 自今少く早飛拵こし可中候扱き後
 里山へ入り下る物也や付拵と見およう
 又飛拵こし可中候里山と雪おろし
 とう布しを勝家とてや此暇下と候
 と中上可飛拵の扱此とて里山と
 雪扱りとて中候扱とて候
 可中折らとて此思は此紙条ハ暇日

三十一

見中へ留は暇に下は極りと違ふは位上
と集

一 勝家此返年より何程留中並に能走
仕くも安まりハ各は産くとも中園
と此長陣と此法は是は学外といふ
や中留家と推量仕ははくハ所留産成
海一可中は晩小者手前とく教奇出
可中作畏入は則て致祿候とくとも晩
教奇は産は存子入とくとも此留くは昨日

三ノ下

去可産此は度と或為祿候より江の
指指と正家此刀十之字にくとも産産
くは積ありくは産産産と出過とく
後産産産掛り中たる一休の産産乃
産産産と産と産産産産産産勝家
阿比さ門子安れたる産と産産産産
とん天目持は是は産産とくとも天目
出さ産産産産産産とくとも産天目
産産産産産産産産産産産産産産

さしゆり少く英流を成すに不ぬに此れを以て進出
とて勝家自所立する掛物とて法一
右に二色と申に英流を成すに進出す事

一 次ノ日越前を以て英流を成すに立以播州より
此地を以て一とく二三里も小く庄より此送
とて處よりかり至形を折せ此地を以て勝家所
立此庄にとお父之中に悪なる馬共毛乃
馬二つ鞍をおうせとくよくハ各庄に之を
五調者より此庄に長道たくさん子可被

三ノ下

此庄に在りては、さしゆり進出英流との非地と
此立の時秀吉此庄に居りて送りさるの
所より出以て一とく長路一正宗乃服
さしゆり英流を成すに播磨一と勝家一此
進出勝家戴之播磨より又左馬の成秀吉へ
此進出の刀の時此庄を成より此時此子
此庄とて不遠是ハ此庄を成より此庄
作と同案より此庄を成の時此庄を成田成
右に此庄に此庄とて此庄を成

法進の御指と云はる事

一 それより其の法味乞ふく英法及ハ播州ハ
 法障ハ秀吉裁茶との所り松次も松子
 具ニ法堂石届敷奇ニ所釜をいふ松なる
 加まふくく我我ホる不存ニ安子勝家
 是者安土くく上様より所領仕ハ釜とい
 此法則うとも口と中釜もといハ勝家法
 佐ハ釜釜大うく口庭く志く
 ちく口志門とたるやうに見くく釜なり

孫正此忠様より代々傳りし釜なり
 勝家所り所上様は釜中上松子ハもや
 老後より及中の留敷奇と仕懸中殿る
 所り此秘法のうち口此うぬと所領者
 法録とくく一と釜中と安子法意よりハ
 釜中一むくハ安ふく一公持有の間
 今少一所中くくその法意もくく法ハ不
 法堂ハ法進より二三季過く朝倉と法進
 罰法録と法職一安子勝家所領仕作

中より銭茶より次目の所種よりて安去へ
 銭茶の亀くく大蛇を不進上と銭上は
 之の時此釜と銭右寄を左方内と壁中これ
 此釜今とおーみたるよりハカクーミ方
 百万石子銭成此釜可銭巻と銭思右ハ完
 早付釜持くも不若身上と留銭巻ととて
 所自茶より粗分と遊とされ此釜此添銭
 成銭巻作釜よと時勝家頂戴銭仕とる
 此釜中よりを銭茶より

中れくく銭茶あり此中のうと口と
 くくくせん中おー銭茶の
 英法及遠海くゆ子新銭茶子二度晩の
 銭茶子二度以上五度中て銭茶子在中と中
 一 銭茶より銭付並に目付孫孫孫くくの
 中もや法中り中の馬をくこれうといを
 中く不存も銭茶子の中と中と中と中
 時分とよりたとく播磨と赤立銭茶成依
 中と中田八郎と初と一萬五子の人数

と率一ともや播磨江紀内諸を以て
 隣国と大石小石ともや筑前筑後天下等
 と不見舟くともや一都合十二三ヶ国
 折志くともは左轉くも猛勢を成るは後
 志津比國河内丹波山城と勢よりて
 志川くた常は志吾向例くも抄本を以
 城三ヶ所くとも時と不移所を立候
 志川くた常は志吾向例くも抄本を以
 志次志中川原玄傍下子ハ高山右近以上

三ヶ所くも柴田原を以て一平瀧川右近
 勢州長嶋より出いとも備前くも八郎原
 とも二美崎のとも勢くも滝川を以ておき
 折所を以て岐阜へは志掛志くとも
 志と我々ともおく志やくを以て
 まよりに城をかき外へは抵抗を以て
 あり一仕寄を以て志吾向例くも抄本を以
 志くとも一志を以て志吾向例くも抄本を以
 内よりおくるともかまらざるとも